

安房地域における パラ・スポーツの普及の取り組み

安房地域広域リハビリテーションセンター

西山 新治、下出 雅仁、佐伯 考一、浅井 史織

はじめに

2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催されることが決まり、都内をはじめとした地方での
パラスポーツのイベントが多く開催されている。

千葉県においても、平成29年度より「千葉県オリンピック・パラリンピックを活用した教育の取組方針」
を策定し推進校を指定している。

今回、安房地域リハビリテーション広域支援センターの活動の一環として、
オリンピック・パラリンピック教育推進校(以下:オリパラ推進校)でパラスポーツ競技の普及活動を行った。
実践内容と我々の活動の一部を報告する。

経緯

安房地域リハビリテーション広域支援センターの活動の一つとして、パラスポーツ普及活動が開始

地域でのボッチャ体験会等を開催

A小学校・B中学校がオリパラ推進校に選出

A小学校の教育委員会が県に依頼

館山市に当活動を紹介

県より当活動を紹介されA小学校の教員より連絡を受けた

館山市より館山のオリパラ推進校への情報提供

A小学校での教員に対する事前打ち合わせ

B中学校の教員より連絡を受けた

A小学校での講義開催

B中学校での講義開催

時間経過

オリパラ推進校での主な活動内容

パラスポーツ講義

目標：
○障がい者スポーツへの興味と理解の促進
○障がい者スポーツの価値（勇気、強い意志、インスピレーション、公平）を伝える



ボッチャ体験会 ゴールボール体験会

目標：
○障がい者スポーツに触れる

A小学校での活動の流れ

教員との打ち合わせ

(事前に学校の教員と学生の人数や場所の確認。当日のスケジュールを確認。)



教員を対象とした模擬講義

(教員にもパラスポーツの講義やボッチャ体験会を実施。)



小学生を対象とした講義・体験会(参加人数40名程度)

(パラスポーツの講義やボッチャの体験会を実施。)

一度に全員で体験。

教員を対象とした模擬講義



小学生を対象とした講義・体験会



B中学校での活動の流れ

教員との打ち合わせ

(事前に学校の教員と学生の人数や場所の確認。当日のスケジュールを確認。)



中学生を対象とした講義・体験会(参加人数約100名)

(パラスポーツの講義やボッチャ・ゴールボールの体験会を実施。)

人数が多く一度に体験できないため、3チームに分かれてローテーションで体験。

ボッチャ体験



ゴールボール体験



人員

人員の確保、継続的に行う上で多くのスタッフが参入しやすい仕組み作りや、ちば地域リハ・パートナー制度の運用も積極的に行っていく必要がある

物品

初期投資として、ボッチャやゴールボールを揃える必要あり。市や近隣の支援学校などとの連携も必要

課題

対象者

小学生・中学生でも理解面の差がある。言葉を平易にすることや画像や動画を用いて視覚的に理解しやすくする工夫が必要

環境

多くの人数に関わる際には広いスペースが必要。コートを縮小したりなどの工夫が必要。

おわりに

2020年に向けてパラスポーツの普及は進んできている。

今回はその中で小・中学校を対象とした関わりの一例を示した。

リハビリテーション職種は障がい者を対象にすることが多く、

パラスポーツとの親和性は非常に高いと思われる。

我々の知識・技術を生かした活動を今後も模索していく必要があると考える。

その他の実践内容



南房総リハ・ケア文化祭(ボッチャ大会)

年1回、南房総地域の医療・介護・福祉に関連する施設や地域住民との交流を目的にした文化祭。その中の一環として、ボッチャ大会を開催した。

開催日以前より、3人1組での募集を開始し計8チームが参加した。

当日は、千葉県ボッチャ協会の方や実際の選手を招致し、ボッチャのデモンストレーションを行った。

ボッチャ・ゴールボール選択理由

ボッチャ、ゴールボールにおいては公式のルールをある程度踏襲したうえで、物品やコートなどの縮小化を図ることで実施することが可能であったため。

その他のパラスポーツでは、物品等を揃えることや競技の熟練度を要するものも多く一回の体験会の時間や場所の関係からも行うことが難しかった。

実践を踏まえて(反省点)

○小学生・中学生では、理解力の面でも大きく異なり、言葉を平易にする点や動画や画像等を多く用いることが有用と感じた。

○地域でのパラスポーツの認知度はまだ決して高くはない。知ってはいるが、やったことがない人が多くいる。まずは、体験会や出張講習などを行うことで実際に見て、触れて、体験していただくことが重要。

対象者：小学生・中学生などでも異なる

人員：

物品・環境

実践を踏まえて(反省点)

○各イベントに対して、人員を確保するのが難しかった。一部、ちば地域リハ・パートナー制度のスタッフにもご協力いただいたが今後も継続的な活動をする上では多くのスタッフが参入しやすいようにしていく必要があると考える。

○行ったパラ・スポーツはボッチャとゴールボールを選択したが、それ以外のパラ・スポーツは人員、道具、環境等も含めて実施するのが困難であった。しかし、上記の2競技は実際のルールを踏襲しつつ、工夫することで地域でも行えることが分かった。

(ボッチャ⇒コート縮小、ターゲットボッチャ、ゴールボール⇒コート縮小、代替物品での実施)

経緯 (A小学校)

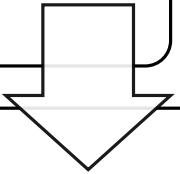
2018年度より安房地域リハビリテーション広域支援センターの活動の一つとして、パラスポーツ普及活動が開始

地域でのボッチャ体験会を開催。

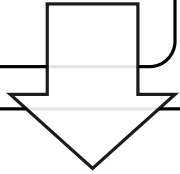
A学校がオリパラ推進校に指定され、教育委員の方が県に依頼したところ当活動を紹介しA小学校での開催が決まった。

経緯（B中学校）

館山市の高齢者福祉課に当活動を紹介した際に、パラスポーツ推進課を紹介いただいたことがきっかけ



館山市のパラスポーツ推進校より館山市のオリパラ推進校に当活動を紹介。



B中学校の教員より安房地域リハビリテーション広域支援センターに連絡があり開催が決まった。